

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

## ◆VCN°37 シャトー・ド・プラド

生産地方：ボルドー

新着ワイン2種類♪

### ACコート・ド・ボルドー・カスティヨン エルヴェ・アン・フュ・ド・シェーヌ (樽熟) 2016 (赤)

2016年のボルドーは質量共に恵まれた当たり年！特にメルローは2015年を超える出来と期待されるミレジムだ！プラドも、春に遅霜のリスクはあったが運良く切り抜け、結果的に豊作に近い50hl/haの収量を確保することができた。品質は、ご多分に漏れず、酒質が滑らかな素晴らしいワインに仕上がっている！洗練されたミネラル感の旨味とキメ細かいタンニンを甘みとコクのあるシルキーな果実味がきれいに包み込み、するりと喉をすり抜ける！余韻に長く残る繊細なタンニンも心地よく、口に含めば含むほど食欲が増してくる！個人でケース買いたいほどコストパフォーマンスの高いワインだ♪

### VdFブラン・モワルー2018 (白甘)

初リリース！2018年は、ミルデューが猛威を振るった年。ベルナール曰く、ミルデューにより夏の終わりに葉がほとんど抜け落ちてしまったが、ブドウは辛うじて残ったそうだ。だが、ブドウが残っても葉がないため光合成が進まず、辛口のワインをつくるにはブドウが未熟過ぎたので、急きょパスリヤージュして甘口にするようにした。彼曰く、ボルドーのセミヨンと言っても、ソーテルヌではなくどちらかというヴァン・ド・パイユに近いアプローチでつくった甘口とのこと。つまり、貴腐ではなく、藁の陰干しのように水分が飛んで凝縮するまでブドウを長く枝に放置して糖度を上げているのだ！残糖100g/Lあるが、ワインはソーテルヌよりも甘みが控えめで、酸が効いていることもあり全体的に清涼感がある！甘口のボルドーとしては、驚くほどコストパフォーマンスの高いワインだ！

#### ミレジム情報 当主「ベルナール・フルニエ」のコメント

2016年は、収量品質共に恵まれた当たり年！特にメルローは、近年の当たり年と言われている2009年、2010年を超える出来とボルドーでは評価されている！冬は暖冬で雨が多かった。春のスタートは芽吹きが早く、ブドウの成長サイクルも早かったが、4月の終わりにボルドー全域を大規模な寒波が襲った。この寒波の影響によりオー・メドックからシャラント地方にかけて大規模な霜の被害が遭ったが、私の畑はほとんど被害がなかった。この寒波の影響でブドウの成長サイクルにブレーキがかかったが、6月から気温が上昇し再び成長にアクセルがかかった。開花は問題なく順調に終わった。その後、8月まで雨が降らず一時日照りのリスクがあった。だが、9月中旬に50mmを超える雨が降ったおかげで再びブドウは息を吹き返し、そのまま健全に完熟に向かって行った！

2018年は、ミルデューが猛威を振るった年。特にメルローは被害が大きかった。冬から春にかけて暖かく雨が多かった。ブドウの発芽は早かった。5月26日に大規模な雹が降り、ボルドー広範にわたり甚大な被害をもたらしたが、幸い私の畑はほとんど被害がなかった。5月から8月中旬まで湿度の高い日が続きミルデューが猛威を振るった。ミルデューによる被害はメルローが70%、セミヨンは30%。その後は暑い日が続き、幸い残ったブドウは熟しも早くきれいな状態で収穫できた。

## 「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



今年に入り4月と6月の2回ブラドを訪問する機会があった。これは4月に訪問した時に撮ったセミヨンの畑の写真。今回リリースするブラン・モワルーの畑だ。(写真①) 区画の面積は50aあり、1m x 2mの間隔でブドウの株が植えられている。仕立てはギユイヨ・サンプル。ちなみに、このセミヨンはベルナルが父と働き始めて最初に植樹したブドウなのだそうだ。それからあっという間に42年の際月が経ち、今ではヴィエーユ・ヴィーニュになりつつある。

写真① 今回リリースのブラン・モワルーの畑

これはこのセミヨンの畑に自生している野生のネギ。(写真②) 冬の終わりから春先にかけてがシーズンで、ほぼフェルムのような自給自足生活をしているベルナルにとっては春先の貴重な食糧源となっている。彼が言うには、この野生のネギはカスティオンやサンテミリオン周辺で見つかることは珍しく、生息の条件として土壌が汚染されていないことが重要なのだそうだ。逆に言えば、野生のネギが自生する畑は農薬で土壌が汚染されていない証拠だと彼は言う。彼はこの野生のネギを暖炉の火で素焼きにしたり、そのまま茹でてヴィネガーソースをかけて食べるのだが、通常のネギよりも甘く味がしっかりとあってとても美味しいようだ！



写真② セミヨンの畑に自生する野生のネギ



写真③ セミヨンの畑に自生するマスタードの花

セミヨンの畑は全部で1haあり、ここ以外にももうひとつ同面積の畑が写真左奥の土手の上の雑木林に囲まれるように存在する。そして、これがもう少し接近して撮ったもう一つのセミヨンの区画の写真だ。(写真③) こちらは野生のネギが自生する区画と違い、黄色い花が畑一面に咲き乱れている。ちなみに、この黄色い花はマスタードの花。土壌の窒素不足を補うためにビオロジック農家ではよくマスタードの花が畑に植えられることがあるが、何と！このベルナルの畑のマスタードの花は植えられたものではなく勝手に自生し増えていったものだそうだ！そして、興味深いのは、マスタードの花の区画と野生のネギの区画が隣通しでもお互い支配されることなくきちんと分かれ、ちょっとした小さな生態系ができてきていることだ！「土壌が同じでも野生のネギとマスタードの花のお互いが棲み分けできているのは、何も手を加えずビオロジックで40年以上も変わらず同じ方法で畑を耕してきたからだ」と彼は言う。

最近ビオロジックの世界では、流行りのように植物の種を畑に蒔いて土壌改良を行う生産者が増えている。ベルナルの畑は詳しい説明を受けないと普通の畑に見えてしまうが、実際には、土壌の質の面から見て、植物の種まきが実践されたばかりの畑に比べて生態系の完成度が高く、年季の入りが全く違う！今回の訪問で、ブドウの樹の周辺の植物が、人間の手が加わることなく、自然に時間をかけてはっきりと棲み分けされていたことに驚いた！

(2019.4.5. & 6.26 ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ